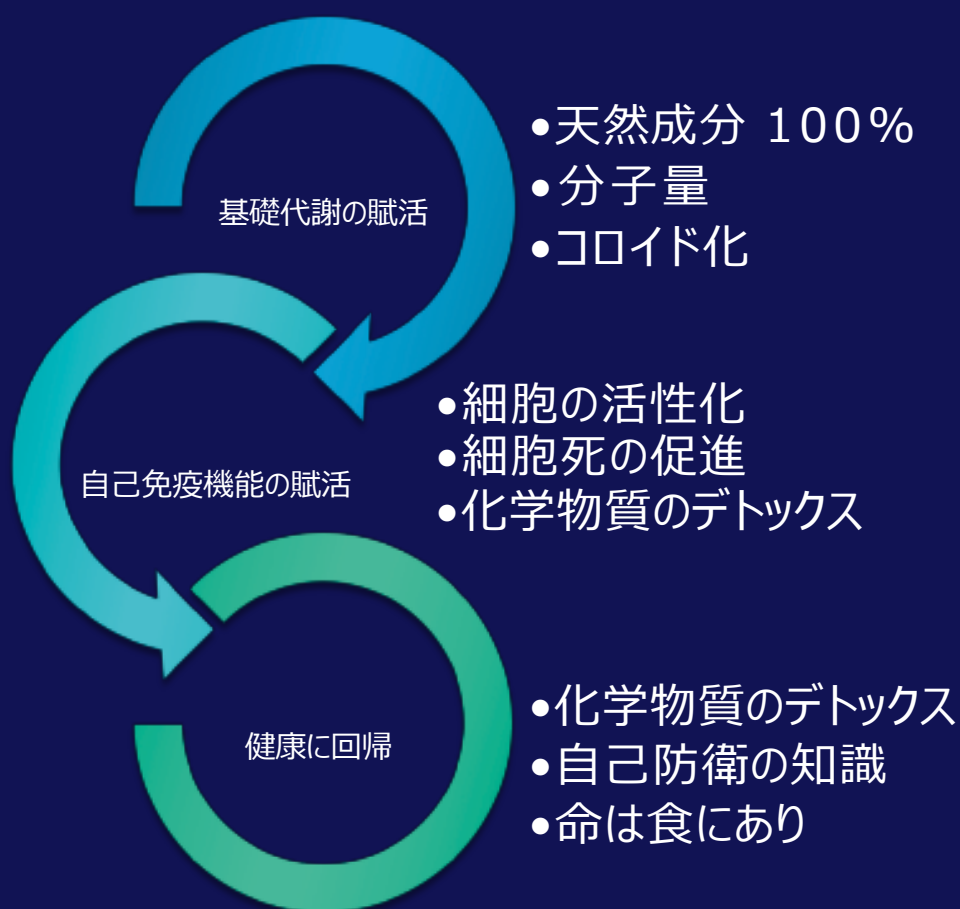


RE-BALANCING WATER

MD α

基礎代謝賦活飲料



はじめに

世界には、命と健康に関する憲章や標語が溢れているが、健康の概念・本質・定義について詳しく説明されたものはない。概念や本質は本研究の枠外であるが、定義について以下のとおり再現性を検証した。

課題1. 基礎的な代謝の欠如を改善すること

食物から栄養素をつくり、細胞を活性化し、免疫を正常にし、化学物質をデトックスする。

本研究では、このことを「基礎代謝の賦活」と表現している。

課題2. 基礎代謝に必要な物質群は天然物質とすること

課題3. 化学物質による医薬品や健康食品では元の健康に戻れないこと

現代社会では、不規則な生活やストレスから逃れることはできない。また、食も医療も化学物質のもつ便りを100%排除することは不可能である。そのような環境下で健康な身体を管理維持するためには、細胞レベルで必要とする栄養素を外から補い、化学物質や重金属など身体に不要なものはデトックスするという習慣が不可欠となる。基礎代謝の活性とデトックスにより免疫力は高まって、病気やストレスに負けない健康体を得ることができる。

MDaは、天然素材100%で、基礎代謝とデトックスを同時に叶える世界で初めての機能性飲料である。基礎代謝の賦活と正しいデトックス（分解・解毒・排出）に着目し、副作用のない医療に役立てたいと研究したものである。

健康の概念とは何か

体調を損ない医師に診察してもらうと、免疫が低下しているとの指摘をしばしば受けるが、免疫が元通りになる方法と物質が何であるかは教えて貰えない。生物の基礎代謝は生命機能因子の数が生物種によって異なる。しかし、共通している事柄は、基礎代謝を賦活させる物質群は全て天然の組成物であるということである。基礎代謝に必要な物質群について、過去の文献や示唆が体系的に開示された示唆も文献もない。この物質群の探求こそがMDaの研究成果であったと考える。天然100%の物質だけを素材に、数多くのカップリングから濃度と配合によって素材同士の拮抗がないよう何度も繰り返し研究を重ねた結果、辿り着いた物質群こそが命と健康を左右していることを知った。基礎代謝に必要な不可欠な物質群を供給することで細胞活性と細胞死による新陳代謝を促し、免疫を活性化し、全体統合性を調節する。このように、免疫機能の働きが生体を守っている状態を「健康」なのだと考える。

健康な身体を保つには基礎代謝の賦活と不要なものをデトックスする両輪が大切である。食物から栄養素をつくり、細胞を活性化すれば自然と血流も改善され、体の隅々まで栄養が行届き、免疫も正常な状態に戻る。加えて、不要な物質を体内から排出することで、自らが生まれながらに有する健康を取り戻すことができると考察する。

全ての生物の成長を阻害しているのは化学物質

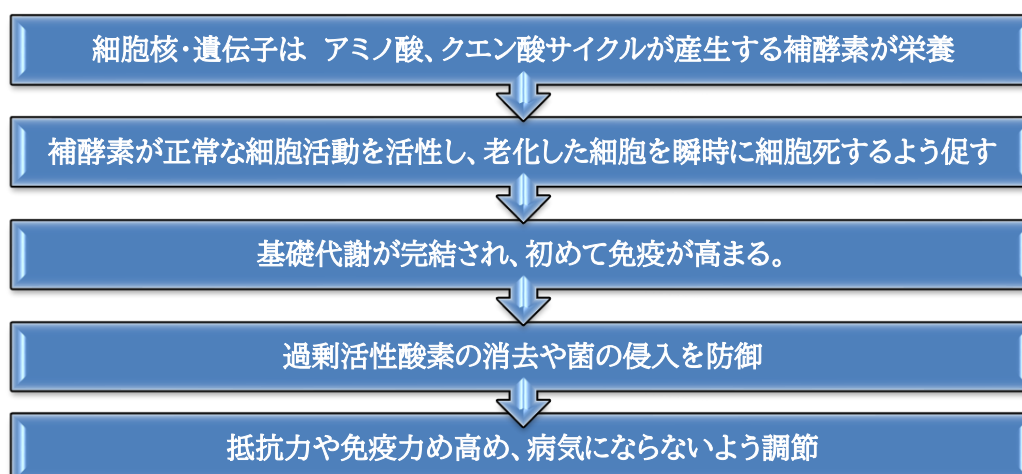
食物連鎖を阻害している化学物質は、医・衣・食・農にまで及んでいる。副作用のない医薬品の開発は、WHOをはじめ多くの医師が唱えているが、営利を追求する製薬会社は、自己の利益を守るためにその要求になかなか耳を傾けない。それどころか、化学物質をナノ化する研究を加速させ、未知の危険を招こうとさえしている。

自らの命と健康を健やかに保つ自己防衛の具体策は、基礎代謝の賦活が第一であり、次に自己免疫機能の回復、そして、化学物質の毒性に対する体系的な知識を得ることである。また、健康を損なった人体を本来の機能に戻すには、基礎代謝能力の改善と化学物質の解毒が必須となる。健康を蝕む化学物質などは処理ができれば身体に堆積される。そのうえ、体内から排出できないものは濃縮され子へと受け継がれる。そして、化学物質が氾濫する生活の中で更に蓄積されていくのである。残念ながら、予防医学や代替医療においても、基礎代謝の賦活と化学物質のデトックスはあまり指摘されていない。ちなみに、医薬品の作用効果である阻害や拮抗により、副作用のない医療の遂行は極めて困難とされ、化学物質を含む医薬品だけでは元の健康に戻れないことを、医師も周知の事実ととらえている。副作用のない治療法や、元の健康に回帰出来る治療法についての正しい知識と実践は、*MATRIX 臨床研究会（公式HP <https://matrix-info.jp>）においても取り組んでおられるので、そちらを参照して命と健康のために役立て頂きたい。

* MATRIXは、医療者向けMDaの名称です。

基礎代謝の機序(メカニズム)とデトックス

命と健康の在り方を未来に提唱するということは、天然物質により老廃物や化学物質をキレートし、貪食作用を促し、デトックスする仕組みを体系的にまとめ、その整合性を説明することと考える。基礎代謝とデトックスのメカニズムを理解し、自身の健康管理に取り入れ実践すれば、自ずと免疫力が高まり、病気に負けない強い身体を得ることができる。



MD α (Multi Detox α)とは

MD α は、基礎代謝を促す物質群である。基礎代謝に必要な栄養成分で構成され、細胞を活性化することで老廃物や化学物質をデトックス(分解・解毒・排泄)する。基礎代謝は化学物質では為すことができない。生体機能を取り戻すためには、基礎代謝に必要な天然成分を補い、身体に不要な物質や老廃物をデトックスすることが必須である。

研究により得た基礎代謝物質群と吸収条件

基礎代謝を支える物質群とそれらがデトックスされる条件が、MD α の研究により解明された。

1. 基礎代謝を支える物質群とは

リンパの結晶構造である五員環構造の組成を促す物質群はこれまで解明されていなかったが、MD α の研究により、基礎代謝を支える物質群がどのようなものであるのかが解明された。

- ① 細胞核や遺伝子の栄養となる補酵素を産生する触媒物質であること
- ② 栄養分と老廃物の受け渡しに体内電位を上げる電解物質であること
- ③ 食事から摂取できないミネラルや必須元素であること
- ④ 老廃物や化学物質をキレート及び貪食の後、デトックスする誘導体であること
- ⑤ 作用機序が血流の改善を促す物質群であること

2. 基礎代謝の物質群が吸収される条件

基礎代謝の物質群は、下記条件のもとで効率的に補われ、体内に滞留する異物のキレート、貪食、デトックスに対して顕著な作用効果を示すことが検証された。

- ① 海藻から得られる微量なヨウ素の抽出精製純度は99.98%
- ② 分子量のコントロールは、概ね200~400に
- ③ 粒径のコントロールは、概ね20nm(ナノメートル)に
- ④ 溶液の有効モル(mol)濃度は、概ね95%以上に
- ⑤ 吸収されるために体内の電解濃度を高める

MD α の特徴

MD α には以下のような特徴がある。

- ① 基礎代謝を高め、化学物質をキレート~デトックス(分解・解毒・排泄)~無害化することに優れている。
- ② 食物から取りにくい基礎代謝を支える物質群を選び抜き、特殊な製法で体内吸収率を向上させる
- ③ 天然由来の成分のみを使用(100%天然素材)
- ④ 栄養素だけでなく、栄養素を得る触媒、ホルモンバランス、血流・免疫を活性化し、老廃物や化学物質のデトックスに関与することで全体を統合的に強くする。

MDαの厳選された成分

MDαは100%天然原料から厳選された貴重成分を一つに凝縮している。また、健康維持を効率的にサポートするために、成分の一つ一つにもこだわり選定している。

◆ 成分1. 厳選されたフルボ酸

フルボ酸は、現代人が不足しがちな必要な栄養素（含有ミネラルは70種類以上）を多く含み、微量ミネラルの吸収効率を高める。また、酸・アルカリ反応の変化を緩めpH値を安定させる作用、有害物質のキレート作用、その他、活性酸素除去にも効果があるため、抗酸化物質として炎症抑制も期待できる。MDαは安定性と電位の高い、極めて貴重なフルボ酸を使用。

◆ 成分2. 腐食花崗岩から選び抜いたミネラル（22種）

栄養学的には必須元素と呼ばれ、欠乏すると一般に「未病」と呼ばれる元気がない状態となる。体内では生成ができないため、外からの補給が必至。MDαのミネラルは腐食花崗岩を原料としており、特に必要と考える22種の微量ミネラルを選び主要成分としている。アミノ酸ATP回路で不可欠な触媒として必要であるうえ、体内に滞留する化学物質を吸着してデトックスする役目も担っている。

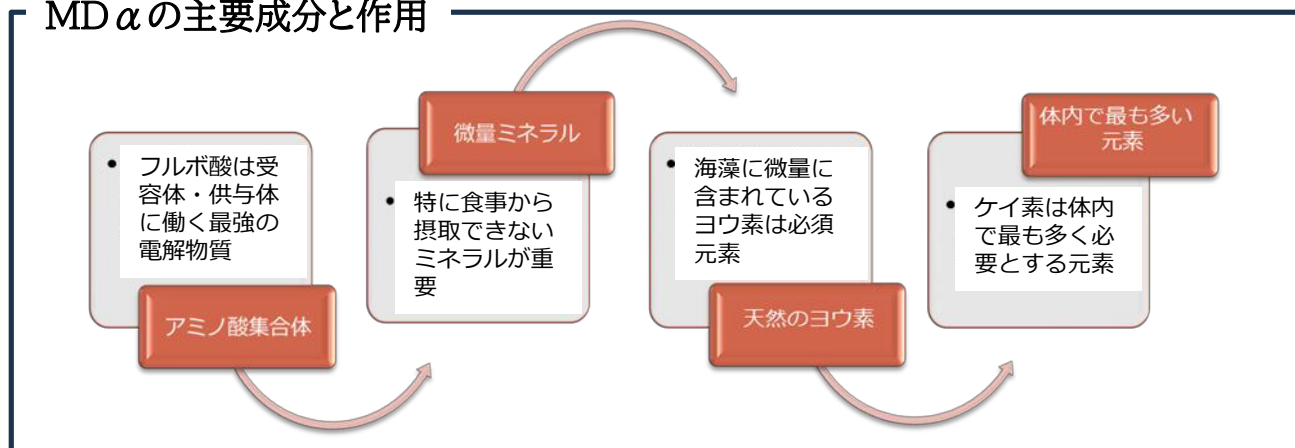
◆ 成分3. 産地が限定された海藻から抽出された有機ヨウ素。特殊な製法でナノ化

甲状腺ホルモンの生成に役立ち、基礎代謝を促進。新陳代謝が高まることで免疫力が向上し、自然治癒力を取り戻すように働きかける。老化した細胞の新陳代謝の改善や過度の炎症の抑制、活性酸素の除去に効果が期待される。MDαの有機ヨウ素は、選び抜かれた食品由来のモズクと昆布から抽出し粒径をナノ化（概ね20nm）している。取りすぎに良くないといわれるヨウ素ではあるが、MDαの有機ヨウ素は取りすぎても尿として排出されるので安心である。

◆ 成分4. 鉱物性水溶性ケイ素（シリカ）

粒径が5ナノと小さいことから化学物質や農薬などのデトックスにも役立つことがわかっている。ケイ素はコラーゲンの合成を促進するため、肌のトラブルにも効果がある。また、免疫細胞の増加にも寄与するため免疫力の正常化にも役立つ。

MDαの主要成分と作用



MD α 適応症状

MD α は医薬品ではないが、サプリメント（MD α ）投与による生理活性クリニカルトライアルデータ・セルフモニタリングにより、以下のような活性と効果が確認されている。①～⑥に示す広範な活性は、基礎代謝の賦活に必要な物質群の働きと仮定すれば、医薬品でも例のない改善例だといえる。

- ① 飲用による抗がん剤の副作用に対する活性
- ② 抗菌に対する活性。アトピーなどの皮膚のかゆみを鎮静し、掻く行為による重症化を防ぐ。
ステロイド（化学物質）剤による副作用、リバウンドを防止
- ③ 抗アレルギーに対する活性
- ④ 生活習慣病への活性
- ⑤ 二日酔い・未病段階の不調に活性
- ⑥ 小動物の難治性と言われる真菌・アカラス・膿皮症に活性

※活性とは効果があったことをいう

MD α の種類と用法・用量

MD α は、症状により適宜使い分けている。MD α # 30・# 50・# 100の順で、フルボ酸とナノコロイドヨウ素が約1/2となる。その他の成分はほぼ同じであるが、MD α # 30は効果を高めるためにミネラル分の配合を調節している。MD α # 200はMD α # 100よりさらにフルボ酸とナノコロイドヨウ素の濃度が半分となる。

MD α は、基本的に容量依存性である。濃い濃度の方が早く反応するが、使用者の症状、過敏性を診ながら量を調整する。また、子どもや動物は濃度の薄いものから開始し、容量も適宜調整する。

1. MD α 飲用濃度の参照例

種類	適応症例	用法・用量
# 50	糖尿病、高血圧、抗アレルギー剤（ステロイド）の奪還元作用	起床時15ml～20ml 就寝前15ml～20ml
# 100	生活習慣病予防、痛風、未病状態の改善	起床時20ml～30ml、 就寝時20ml～30ml
# 200	酒毒の解毒（二日酔い等）、便秘、経口した化学物質のデトックス	適時、飲み物に5ml～10mlを添加

2. MD α 塗布の具体例

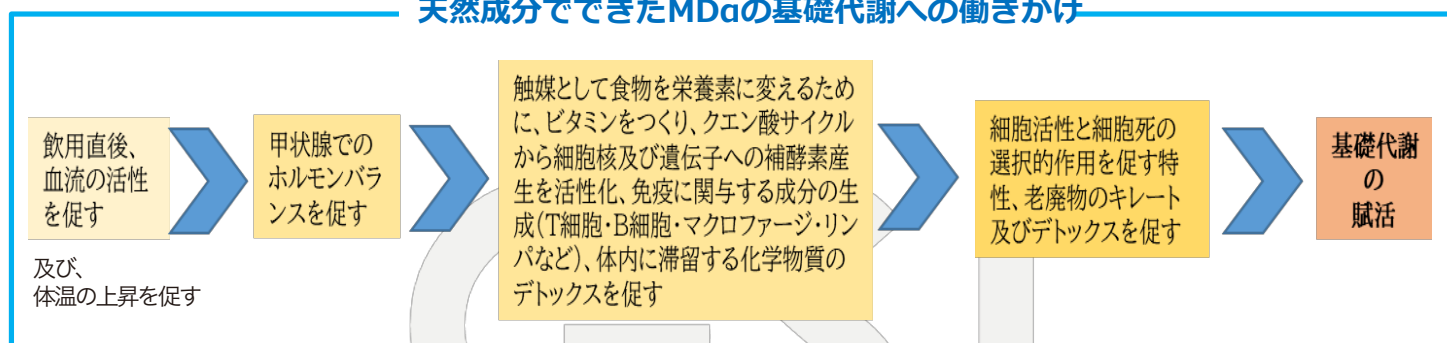
種類	適応症例	用法・用量
# 50	潰瘍性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、水虫などに	痒みが解消するまで何度も塗布、脱酸素作用によって、鎮静してくれば発赤と炎症も伴って、緩和・改善・治癒する。
# 50	アクネ(にきび)、虫さされなどに	最も効果的なのは、就寝前に5～7回、塗布する。痒みが解消するまで何度も塗布すれば、潰瘍性皮膚炎と同様に治癒する。

MDαが得た広範な作用効果

MDαの飲用によって促される血流の活性により、細胞外体液（リンパ液）に浮遊する細胞の膜呼吸が活発となり、栄養分と老廃物の受け渡しが行われ、体内に滞留する化学物質をキレート（挟んで）して体外に排出する。MDαが得た広範な改善や作用は、以下の点に要約される。

- ① 食物から栄養素を得る触媒として関与
- ② 甲状腺でホルモンのバランスに関与
- ③ 血液を作り、細胞の活性化に関与
- ④ 免疫の活性化に関与
- ⑤ 老廃物と化学物質のデトックスに関与

天然成分でできたMDαの基礎代謝への働きかけ



その他、MDαの広範な作用効果により、以下のような用途にも利用できることが検証により認められた。

- ・ Eye-lotionとしてペットの点眼。老眼・ドライアイ・疲れ目・化膿腫の改善
- ・ アトピー症状でも使える化粧品に・・・炎症、発赤、痒みの鎮静作用（化粧品製造販売の許認可済）
- ・ ローションによる老斑の消去作用、肌のハリ・つや
- ・ 発毛を阻害する「5αジヒドロテストステロン=男性ホルモン」の消去作用。
育毛剤、まつげ美容液(眉毛にも可)
- ・ ペット（小動物）への内服及び塗布により、膿皮症・アラカス・真菌などに対して、医薬品に勝る著効が見受けられた。
- ・ 植物・農作物の生育促進が見受けられた。

安全性と副作用

MDαは、厚生省外郭団体である財団法人日本食品分析センターの分析結果から毒性は一切含まないとの分析を得ている。また、天然成分だけを使用したMDαは多く飲用しても排泄され、医薬品と併用した場合でも副作用はないとの見解を臨床医より報告を受けている。

副作用とは概ね化学物質が引き起こすものであるが、過去の飲用例では、抗がん剤治療にMDαを併用した際には副作用が除去されている。

MDαの作用効果により得られた改善例

これまで日本において記録したMDα併用の治癒例では、医師が投与している処方薬はそのまま服用としている。下記のような経緯を経て完治し、元の健康を取り戻して復職までしているケースも多く、MDαが人に役立つことに希望と期待を膨らませている。

得られた改善(1)

癌患者が飲用を始めて、概ね15～20日程度で治癒に向かうことを示す食欲の増進を自認できたこと。通常では癌患者が食欲増進することはない。その後、体重は増加し、投与されている医薬品の副作用も消去され、45日以上経過観察では腫瘍マーカーの好転が見られた。また、別ケースにおいて、腫瘍マーカーが好転せずともリンパ球の改善で治癒を確認。ちなみに、リンパ液は俗に五員環構造と言われ、人工的な方法では生成不可能であり、基礎代謝に必要な天然物質以外ではリンパ液が活性することはないと考える。そのため、MDαの効果がリンパ液の改善に作用していると推測される。

得られた改善(2)

肝機能肝低下の改善も記録した。
肝機能低下から肝硬変に至ったケースでは飲用開始から概ね5カ月程度でGOT・GPT値は正常に改善された。

得られた改善(3)

MDαの飲用開始から90日程度で、血糖値とヘモグロビン(HbA1c)の数値に改善が見受けられた。ちなみに、本症例では何ら食事制限の助言はしていない。日本ではヘモグロビンの改善に多種類の医薬品が投与される傾向にあるが、多剤投与の弊害を認識していないケースも多い。基本的には医師の投薬には従うようにしている。

得られた改善(4)

前立腺癌Ⅳ期、糖尿病、高血圧、心房細動の患者がMDαを朝晩飲用。概ね180日間で全ての数値が正常となり、120日目には仕事に復帰。その後、抗がん剤治療を受けながら一切の副作用を受けずに3カ月で完治。また、高血圧と糖尿病を併発していた患者は、先に高血圧が緩和し、そのあと糖尿病も改善したが、その時間差は概ね40日ほどであった。

得られた改善(5) ～ 動物医による臨床試験結果

皮膚病に対する塗布効果は、化膿菌の脱酸素（還元）作用で抗菌し、殺菌を強くする。化膿細菌の細胞分裂阻止を活性、増殖抑制、細胞静止性を有するホルモン補充作用などに効果あった。例として、アレルギー、ハウスダストアトピー、甲状腺低下症、伝染性膿痂疹、表皮小環、脂漏性、細菌性間擦疹などへの効果が認められた。

また、交感神経末梢ブロックに対する内服効果としては、抗アレルギー剤やステロイド剤の使用量を軽減することができた。アレルギー発現物質を分解、脱酸素、抗酸化への効能を有する副作用のない天然素材であることも認められた。例として、痒み、痛み、発赤、炎症などを緩和、治癒、正常化に誘導する。

終わりに～医療とMDα～

近年、世界は新型コロナの猛威に翻弄され、感染からほんの短い時間の中で落とした命も少なくない。高齢者や基礎疾患を持つ人の割合が高く、誰もが「きっと体力がなかったのだろう」と漠然と考えたに違いない。では、「体力がない」とはどんな状況なのであろうか？それは「身体が健康な状態にない」と言い換えても間違いないだろう。そもそも、新型コロナに感染しても軽度で終わる人もいれば、全く気づかずに済んでしまう人もいる。重症化を起こさない根本の理由はなにか？それが個々の生体の「健康」なのだと考える。

また、感染の拡大の中、急遽、開発された新型ワクチンにより多くの命が救われた。100年ほど前から化学の発展とともに医療も急激に進歩し救われた命も多い。だが、その状況に浮かれて良いのであろうか？もし、化学がなければ救われないというのであれば、過ぎ去った悠久の時間の中で生物はどうやって生き延びてきたのか？古に存在したのは地球が持つ大地と自然、そしてその環境のもと「天然の物質」のみにより育まれた植物・生物である。食物連鎖と自然淘汰による生物の進化はその時々環境に合わせ変化してきたが、生物の命の営みに化学の力は存在しなかった。

話を戻すが、一方で命を救った新型コロナワクチンが、他方で多くの副作用・後遺症を残している。元来、人を病気から救うためのワクチンが人を別の病気にしてしまう。抗がん剤による治療もしかりであるが、薬による対応にはこのような矛盾が生じることがある。コロナ禍でMDαを臨床医療の場で活用した医師から「どうやらMDαはワクチン後遺症に効くようだ」と報告を受けた。同医師は2022年11月に、MDαを治療に適用し、そこから得た結果を本にまとめて出版して下さったが、その中で薬物を用いない治療方法とワクチン後遺症の早期改善についても記しているので参考にして頂きたい。

なぜ、病気にならないために打つワクチンが身体を蝕むのか？ここに「化学物質」の介在があると疑うのは間違いだろうか。また、ワクチンの後遺症が人それぞれなのはなぜなのか？そこには「基礎代謝とデトックス」の重要性が垣間見える。あの騒動の中、政治家、製薬会社、医師、研究者、マスコミ、コメンテーターなどなど新型コロナによる出番を収入増とした方達の言動に誰一人、正鵠を得ていない。即ち自然（自己）免疫についてサイレントマジョリティに助言した人は皆無であった。

MDαは物質の組み合わせであり、薬のように病気を治療するものではなく、基礎代謝を高め免疫を賦活させ、身体に不要なものをデトックスする栄養素の集約（物質群）である。現代社会に不足している栄養素を体内に吸収し、不要なものを排出する。そして、人がもつ機能を元に戻す。それがMDαの力である。

医療が本来目指すものは「健康」であるが、現状は「症状の緩和」に終わってしまっている。人は自然から誕生し、食べ物は自然のものしか分解できない。医学の父と称される古代ギリシャのヒポクラテスは、「食」を語れない医師は医師ではないと言った。現代医学の功績は目を見張るものではあるが、あまりに「病気を治すことだけに」目がいき、本来目指すべき「健康の回復」へのアプローチが、おろそかになっているのではないだろうか。

現代社会に生きる上で化学物質を避けては通れない。であれば、デトックスする習慣を心がけるしかない。栄養が不足して基礎代謝が落ちているのであれば、補って基礎的な代謝を賦活し免疫を元に戻せばよい。医療と食は相互作用をもって初めて完全なものになると考える。MDαは自分で治すことを助ける機能を有するサポート飲料である。飲むだけで始めることができるので、多くの方のお役に立てる事を願っている。